

(共訳) 徐志摩「愛眉小札」¹ [2]

1925年8月16～23日

陳玲・蟹江静夫・柳晶・杜娟・高媛・馬寧澤・李楊² 訳

星野幸代編訳

[一九二五年八月] 十六日

本当に不思議だ、今僕の手も震えてばかりいる。かつてないことだ。眉、僕のハート、不思議だと思わないかい、君の震えと一緒にんだから。恐らく君からうつったんだ、よし、僕たちが同じ病気になって、この激しい心の震えで死ねばめでたしめでたし³じゃないか。ことは確かに出口に至った、眉、東に行くか、西に行くか、君が早く決めなければならない、曖昧なままにしておいたら真面目なことがお笑いになってしまい、そして本当に冗談じゃないよ！彼⁴の口調にはそれ以上の明白さはない。その京友⁵はきつと双心⁶だと思う（手の震えが止まった）決して二番目の人ではありえない。彼の今の口調では前より大分しっかりした見解を持っているようだ。彼は既に“法律に従って処理する”つもりだ。彼の「今年は絶対君を止めない」という言葉を聞いたね。よし、今回は筋が通っている！彼がものわがりのよい人になったのだから、僕たちは心意気を見せるべきじゃないか。眉、このことはごく明白だ。君が決心しさえすれば、お母さん一人はおろか、十人でもかかって君を止められない。僕は君と一緒に南方に戻るつもりだ（君が僕の名前を第一步に巻き込みたくないのは、それはむしろ君の好意だけれど、それでは成功しないと君にも分かっている。だから、煮え切らないでいるよりも堂々と⁷道を歩んだほうがいい。思い切って⁸やろう、愛情は本物なのだから、僕たちのどこにやましいところがあるんだい。）百里⁹に仲介を頼んで、君と彼のことを解決してもらおう。第二步は当然言及しなくていい。誰でも分かっているはずだけど。眉、君は今度は子供っぽくしてはだめだよ。感情を動かさないで、この一大事を一気に解決すれば一日中人に言えない秘密¹⁰を抱いて不自然なつらい生活を続けなくてすむ。君が一日この苦しい立場に陥っていると思うと、僕も心理的に一日だってまっすぐに立ってられない、どうして誠実に仕事をする事ができようか、お陰で誰でも不愉快にしてしまう、本当にばからしいじゃないか。眉、人を救うことは自分を救うこと、自分を救うことは人を救うことなのだ。僕の最も憎んでいるのはいい加減であること、因循であること、臆病であることだ、これらの上では、どんなことをやっても、よりどころを見いだせない。志さえあれば必ず成功する、間違いない。勇気を奮い起こして前進しよう。眉、恐

れないで、僕が全身全霊をかけて君の側についているから。誰かが君を少しでも傷つけようとしたら、僕が命をかけて君を守ってあげるから、恐れることなどなからう。

今晚僕の心の中はどうも不愉快なのは認めるが、僕は説明できる。理由は長いから、明日会って話をしよう。僕の胸中には、君を誠実に愛する情熱のほか、決してどんな不純な考えもない。この一冊の愛眉小札に、愛で流してきた思想を記録する以外、決して意味のない成分は少しも混ざってほしくない。眉、僕はあまりにも君に夢中なのだ。頭の前から踵まで全身が愛だ。僕のことを分かってくれ、眉、君の優しい心で永遠に僕の燃える火のような情熱を包んでくれなければならないよ。決して少しの隙間があってもいけない。その時に破裂する恐れがあるから。 【陳玲 訳】

十八日

十一時過ぎだ、お腹がまだ痛いうえに、寒さに当たって、実に苦しくてたまらないんだ、しかし、この空っぽの庭にはく一人しかいなくて、(道宏¹¹は今回は本当に去ってしまった)、夜の闇が深くとても寝つけない。いまホテルのテラスはちょうどいい涼しきで、ダンスホールでは優雅に着飾った女性たち¹²が何とロマンチックで楽しそなこと¹³！この部屋はおそろしく蒸し暑くて、蚊さえ容赦なく¹⁴、顔も腕も脚も刺されてしまった。病に倒れた半分は昨夜寝不足のせいで、その上に今日玉つきをしてから冷たい水を飲みすぎたからだと思う、まだ少し疲れを感じる、だけど、眉、後で僕に電話すると言っただろう！どうして寝ることができようか？いままいしい使用人たちめ、帰ってしまったたり、眠ってしまったたりで、誰も使いものにならないから、君から電話がかかって来たとき僕が寝いってしまっていたらおしまいだ。だからやはり起きあがって大好きな「愛眉小札」を書くでしょう。先ほど、ベッドに横になってあれこれ考えていた。なるほど「疾病にして則ち親を思う [病気になると家族のことがひとしお懐かしい]」とはよく言ったものだ。僕がちょっと具合が悪いだけで、すぐに感情的になったのは、可笑しいと思わない。でも両親が恋しいとは思わない、以前病気になるといつも母を思ったものだが、今は母でさえ遠のいてしまって、大好きな、いとしい小眉のことばかり思っている。君が病気になったあとき、天罰で傍に居られなかったことをも思い出して、思いだしたら心が痛くなって、眉、そのとき君がどんなに熱烈に僕のことを想って、会いたがっていたことを僕が知らないはずがなからう、イタリアに滞在中何度となく君のことを思っただけで、強く自分の腕を噛むか、こぶしで胸をたたかして、本当に痛みを感じてようやく正気を取り戻したものだ。今晚はほくが君を想う番だ。眉！君が僕の枕元に座ってお湯を飲ませてくれて、薬を飲ませてくれ、ひどく痛むところをなでてくれて、ぐっすり眠らせてくれるのを想像してみた、それはどんなに幸せだろう。僕は一生病気でいて、君を一生病気の僕に座らせていたい。ああ、それは

だめだ、勝手すぎる、そういうふうにはいけない。昨夜もし僕が死んだら君はどうするって聞いたら、私も死ぬって君は答えて、本当かいと僕は訊ねると、君が次に答えたことは割と本音に近いね。君は、もしかしたら死なないかもしれない、母がいるから、でも自分の心を「閉じ」て、もう二度と男たちと付き合わないって言ったね。眉、本当かい？ドアは閉められても、開けられるよ、そうだろう？僕は本当に馬鹿だ、いったい何を考えているのか、非現実的すぎる！さっき、今晚の腹痛がもしも盲腸炎だったら、痛みがひどくなってきて極めて短い時間で僕を死なせてくれるのにと考えていた、どうせこの空っぽの庭には幻影¹⁵もなく、空に冷え冷えとした星がいくつか、地上に野生の花がいくつかあるばかりだ。もし本当に僕の魂が体から抜け出して、一筋の魂となってふわふわと漂えたらなんと自由なことか、涼風に乗って行こう、自分には何の意志もなく、もし空中に音楽のひびきが吹いてきたら、僕の魂はその方向に向かって飛んでいくかもしれない——ホテルのテラスに吹き寄せられるかもしれない、ああ、なんて涼しいところだろう、なんてきれいな音楽だろう、なんてにぎやかな人の群れだろう！

【高媛 訳】

ああ！あれはまた誰だろう、あの妙齢の女性は、あの男性の肩に気だるそうにもたれて、その水をまいたような地上で軽やかに舞っている、なんて美しい舞姿だろう。しかし、彼女は誰なんだ？なぜ僕のこのつかみどころのない三魂はまたわけもなく激しい戦慄を感じるのだろうか。彼女は誰なのだ、そんなにも美しく、そんなにも風情があり、近くに行ってみせてよ、どうせこの幻影は誰にも気づかれないし、嫌がられることもないじゃないか。今僕は彼女のそばに近よった——けだるそうに男性の肩にもたれ、軽やかに踊っているあの若い女性、彼女は一体誰なんだい、君、孤独な幽霊よ、君は一体はつきりと見たのかい？彼女は余所の人ではない。皇室の皇女ではなく、外国の少女ではなく、彼女はほかの人ではない、彼女は彼女だ——君が生前に命¹⁶を投げ出して恋したあの女だ。君は不幸だ、こんなに若くして死んでしまった、彼女はまた知らないのだ、君が知らせないのに彼女がどうして知っているだろう——あのワルツの音楽のなんと美しくて軽やかなことか！よし、僕が知らせてやろう、幻影は少しためらい、彼のその形のない悲しい涙を飲み込んで、さらに彼女を近づき、見えない指先を挙げて、彼女の暖かい胸にそっと当てた——ああ、彼女はちょっと身震いをし、頭を上げ、踊りを止め、目を大きく見開いて、光に透ける幻影を目を見張って見ている。その一瞥で彼女は見てとり、彼女にも分かった、彼女は終わったと知ったのだ——彼女は手で顔を覆い、悲しげに泣いた、彼女と一緒に踊っていた男性は、彼女を引き寄せて、のぞき込み、やさしい声で彼女を慰めていた——水をまいたような地上で、彼は悲しんで泣いている彼女を抱え、ゆっくりと席に戻った。腰をおろした。音楽はなおも絶え間なく流れている。

十二時になった、君からはまだ連絡がない、僕は再びベッドで横になって考えるとし

よう。

十二時四十五分になった。やはり連絡がない、水道の水音は、しとしとと降る秋雨のようで、本当に苛々する。どうして心がこんなにも寂しいのだろうか。涙が——糸のように頬を伝ってきた！何を書いているんだ、床に入ろう。

一時になった。一匹の秋の虫が階下で鳴いている。僕の胸はどきどきする。僕の心は粉々に砕け散る、痛い！何を書いているんだ、やはり横になろう、孤独な馬鹿者よ。

一時十分をすぎた。まだこんなに早いとは、時が経つのがなんと遅いだろう。

この床はこんなに固い。ひざまづいていると両膝が痛くなる。痛いのを我慢してまで、祈って何になる？人間に心があるかどうかは問題だ、天には神様がいらっしゃるかどうかはさらに疑わしい。

志摩よ、お前は本当は不幸だ！志摩よ、可哀そうに！もっと前に世界がこんなものだと知っていたら、お前は母胎から出てこなくてもよかったのに！この胸にたぎる熱い血をいつの日か吐きつくそう。

一時二十分だ！

一時半——信じられない！¹⁷

一時三十五分——人生はあまりに素晴らしい、あまりに素晴らしい、実に。はは！！

【杜娟 訳】

一時四十五分——ああ、女の愛とはもともとそんなものだ！女の愛とはもともとそんなものだ！

一時五十五分——神よ！

二時五分——私の魂の血一滴一滴がそこに滴っている…

二時十八分——気が狂う

二時三十分

二時四十分 「ああ無念だ、無念だ、イア—ゴ！」^{補注} 神よ、何と言うことだ。

この言葉に凝縮されている！言葉のすべての音節から血が滴っている…

二時五十分——たまらなく静かだ

三時七分

三時二十五分——火がすっかり消えてしまった

三時四十分——心が茫然となる

五時十五分前——ああ

六時三十分

七時三十分

十九日

眉、君は僕を救ってくれた。今度こそ本当に分ってくれたと思う。感情が誠実かつ熱烈にいたると、知らず知らずに極端な方向に行くものだ。だから僕一人で気が狂ったように一晩考えた。僕はどうして君に対して故意に怒るのだろう、僕には少しの疑いもなかった、それはつまり僕自身の生命を疑うということだからだ、僕はただ君があまりに子供っぽいのが嫌なだけなんだ。ある時には親疎の別をはっきり見分けず、またあまりに心配しすぎたり、勇気に欠けることがある。真実の愛は罪にはならないということを知らなければならない(愛しているけれどもそれが本物でないことを恐れて、真の字の絶対的な意義をできればそれでやっとな愛の字になる)、必要なときには僕たちは身をもって殉じなければならないこと、烈士たちが国を愛すること、宗教家が道に殉じることとは、同じ意味だ。君の心にわだかまりがまだあるとき、また「恐さ」を感じるとき、君の考えは完全に愛に染まらない、君の愛は曇りなく透き通った境界に到達していない、それは光沢が純粹でない宝石に比べても、価値がそれほど高くなりえない。昨晚のその経験を、いま考えてみると、その効用がおのずとある。ごらん、僕は君なしでは生きていけない、体だけではなく、僕は君の精神が欲しい、僕は君の体が完全に僕を愛することを願い、君の精神が完全に僕に浸み込むことを願い、僕が求めるのは君の絶対的な全てだ——なぜなら、僕が君に捧げるものは絶対的な全てなのだから、それでやっとなひとつの愛の字になることができる。本当の互いに恋する時に、眉、君はできるだけ、気のすむまで「与える」ことが出来る、君の所有するすべてを君の恋人にあげて、もはやどんな保留もない、何も隠さないことはいうまでもない、この「与える」ことについて、君は知らなければならない、決して捧げつくすことではない、君が人に長衣を一枚とか何かをあげるようなこととは違う。捧げつくすのではないだけでなく、この「与える」ことは本当の愛だ。何故なら二人の恋の交流の中で、「与える」と「もらう」には境がない、実際は君が「与える」ほど益々君は豊かになる、なぜなら愛情は金のように硬くないから、それは水の流れと流れの交わりで、それは明月が軽やかな雲の衣服をまとったように、雲は更に美しくなり、月光も更に鮮やかになるのだ。眉、君はわかるだろう、僕たちは買い物をするときにもけちをつけて、だまされないように、果物に虫が食ったのは買わないし、宝石にも曇りがあるのは要らないし、薄絹に皺が寄ったのも要らない。愛は人生の最も偉大な事実なのだから、どうして完全なものでなくてよかろうか、絶対に全体を全体と引き換えに、全体が全体に解け合わなければならない、砂糖が水に解けるように、これこそ理想的な事業だ、そんな日がきたら、一生の役割を果たしたことになる。

【馬寧澤 訳】

眉、今しがた君は、僕と一緒に死んでしまいたいと言ってくれたので、僕はやっとな君に僕を愛する土台が出来たと安心した。事実はある必要はないが、決心は無しには許さ

れない、実際のな事件は誰もすべて測ることができないから、そのときになってそれなりの用意がない時、神聖であったはずの事が醜い戯言となる。世の中には気概がない人がいくらでもいるから、戯言ばかりきこえてくる。本当にまじめな人が何人いるだろうか。僕たちはとりわけ自らを励まさなければならぬ。

僕は愛の肉眼に僕の肉体を知ってほしいだけでなく、君の心眼が僕の魂を知ってほしい。

小曼の名言に曰く：「一人なら、食べたいときに何でも食べられて、なんとかやっていけると思う。」

二十日

思いの深さゆえに腰細り、日々装いたり¹⁸。

僕はやはり弱っていて、熱がまだあると感じる。今晚はぐっすり眠ったら治るだろう。これは自ら招いた苦しみだ、一昨日の夜は大したことがなかったけど、一晩中気が狂ったようだったから、報いは当たり前だ。眉、この責任は君にもある。

僕はあの幾重にも重なった簾が好きだ、簾の外は濃い緑の影があれば、もっと趣があるのに。

君の訳のわからない応対にはもううんざりした。考えると腹が立ってくる。年じゅう、強盗に強奪されて、正直にいえば、僕は毎晩眠れないのはこのせいだ。眉、少しは気をつけなければならないよ、「未然に防ぐ」にはそれなりの時が不可欠なんだ。

二十一日

眉、目を覚まして、眉、起きるんだ、君はいま、瀬戸際に立っている。もう誤魔化してはいけない、もうぐずぐずしてもいけない。君が一人前になるチャンスが来た、ほんとうに来たんだ！F[不詳]は君のことをボロ切れのように取り扱って捨てて、人前で、ある限りの恥をかかせた。いくら根性がなくても、迷ってはいけない。それと同時に、離婚できたら、もう北京に住めないとわかるね。僕は君のことを待っている。天地の果て、どこまでも行く、君のために、僕はどんな道でも欣然としてためらわず歩いていく。聞くんた。いまの君の選択肢の一方は成り行き任せで曖昧な生き方で、一方はまじめな生活だ。一方は汚い社会で、一方は栄光の恋愛だ。一方は納得できない家庭で、一方は広々とした世界と人生だ。一方は君のいろいろな習慣、継母と叔母、友人たちで、一方は僕と僕との愛だ。今甲斐ははっきり見極めるんだ、最愛の眉、「はじめのごくわずかの違いが、最後は非常に大きな違いとなる」、「ふとしたまちがいが一生の悔いを残す」というだろう、君は自分の意思で決意を固めるんだ、君を愛し君に期待している友達は、君のことを見直さなければ！

眉、なぜ僕の話を受け取れないんだ、いつになったら僕の話を受けられるんだい、僕の愛を受け取れないのかい？僕にくれた愛は不完全なのかい？なぜ僕の話を受け取れないんだ、ごく小さいことまで僕に従わなかったくないんだい。——そのくせ他の人が君をどこかに連れて行ってくれるとなると、君は着飾っていそいそと行くじゃないか。もし君は僕のことを本当に恋しているなら、そんなに度胸がないようではだめだ。恋愛はもともと公明正大なことだ、なんでこんなにこそこそしなければならぬのか、なんて歯がゆいことか！

【李楊 訳】

眉よ、君のは偶然の目覚め、偶然の苦しみでしかないことを知っているだろうが、僕のは、寝ても覚めても憂愁で胸が張り裂けそう。おお眉よ！僕を愛してくれ、僕に君のすべての愛をささげてくれ、われわれはひとつになろう。僕が君にささげた愛のなかに入ってきてごらん、僕の愛を君でいっぱいさせてくれ、君をはぐくませてくれ、君のすてきな体にキスをさせてくれ、そして君のすてきな魂を抱きしめさせてくれ。僕の愛を君で満たしてくれ、完全に君を溶け込ませてくれ、僕を君の僕に対する情熱のなかで幸せに、自信たっぷりに休ませてくれ！

憂愁それはいつも僕の心にまとわりつく、
あたかも胡弓弾きが練習しているかのよう。
悲哀は海の岩間の荒波のごとし、
あのすさまじさを見よ、あの泣き叫ぶのを聞け！

二十二日

眉よ、今日の午後僕は本当におなかがすいてたまらなかったし¹⁹、こみあげてくる痲癢を抑えることができなかった、このように言うところ、ところが君に笑われて僕はいっそう悲しくなった²⁰、思うに僕は尋常でない自制心のなさを感じているのだ。だがそれと同時に君ももちろん僕の考えがわかっている、僕は切に希望する、聡明な眉よ、君は僕の心が不正直でないこと、心も度を越して狭いとは言えないことがわかっている、僕がいちばん憎んでいるのは細かいところにおいて真面目であることだ。だが大きなところでははっきりさせなくてはならない、名分と理解があればやりやすい、そうでなければ境界線の曖昧な将棋のようで、手のつけようがなくなってしまう。多くのできごとはただの空騒ぎ、だからこそ頭脳の明晰さが不可欠なのだ。

君がさきほどダンスしながら言った言葉は僕を気恥ずかしくさせた、君はこう言った。「私たちは何を遠慮することがあるの」と。まさか僕は本当に心が狭いわけではなからう、僕はよく反省せねばならない。眉よ、僕には君を責めるところがない、僕はただ君の思想が僕のそれと一体となり、まちががなく隙間をなくせば、誤解はなくなるだ

ろう²¹。

われわれは互いに思いやらねばならない。君と僕の間にあるものすべてが愛という一字から流れているのだ。

僕は絶対に君の言うことを聞く。君に南に帰れと言われれば僕はすぐ南に帰るし、北に行けと言われればすぐに北に行く。 【蟹江静夫 訳】

今日はもともと皆の見ている前で君にちょっと恨みごとを言おうと思っていたんだが、機会がなかった、僕は言いたい、「小眉は本当にひどい人だ²²、他人^{ひと}²³をはるか万里の道のりから呼びもどしておきながら、静かに話をする機会も与えてくれないんだから！」と。来週西山へ行けばきっと機会があるに違いない、僕は考えていると興奮してしまう、君はどう、眉？

僕はもっと深い思想で²⁴きつと詩を書きあげて、それで初めて²⁵君を感動させることができる、眉、時には僕は君一人だけが僕の詩を真に理解してくれて、僕の詩を愛してくれると思ったり、本当に時には僕が君を愛するのはどんなに深いか君に分からせるために、血管の血で詩を一首書いて君にあげられたらと思うことがある²⁶。

眉、僕の詩魂の滋養はすべて君に頼らなければならないのだから²⁷、君は僕の詩魂を抱かなければならない、母親が子供を抱くように、彼²⁸が寒いときは君は服を着せてあげなければならぬし、彼がお腹をすかせていたら君は食べさせなければならぬ——君の愛があれば彼は飢えもせず凍えもしない、君の愛があれば彼には命があるのだ！

眉²⁹、君は僕の思想をもっと高くもっと大きくもっと美しいところへ引っぱって行かなければならない。もしもある日僕の思想が墮落したり、衰えたりしたときには君の恥だ。覚えておいてくれ³⁰、眉！

もう三時だ、でも僕は君にすこし話をしないうちは眠りたいと思ってはいけないのだ。今頃は君は多分とっくに眠りにについているだろうが、明日の九時半には起きることができるかい？僕はやはり問題じゃないかと思う。

君が楽しくないとき僕は一番辛い、僕は君に慰めを与える特権があり義務がある第一人者であるべきじゃないかい？この次君が誰かにどれだけいじめられて気分を害していても、僕が君の傍にいて君を一眼見るか君にちょっと言葉をかけさえすれば、君はすぐ気持ちや和らぐはずだ³¹。君は決して僕に“Shut up [黙って]”と言って³²、(勿論君は言うはずがない、僕は冗談で言っているんだ)僕の心に切り傷を負わせてはいけない。

僕たち男性、特に僕のような愚か者は、確かに変だ。僕たちの思いはどんなふうに変わるか分からない³³。例えば昨秋のあの「一双海電」³⁴は、なぜやって来て³⁵すぐに一万二千度の熱を瞬時に氷に変え、天を燃やすほどの火をすぐさま灰に変えるのだろうか³⁶。もしかしたら僕は余りに愚かなのかもしれない、この世に絶対的なことは本来少ないのだから。All or nothing [全てを、さもなくば無を]——は、それでもなお今に至るまで

僕の人としての指標なのだ。

眉、君は本当に子供だ、ほら、³⁷君の感情の変化が来るのは何て早いことか³⁸。怒りの言葉を言いきらないうちに、騒ぎながらローストビーフサンドイッチを食べて³⁹いたりするんだから！

今晚君とおどったあのダンスは、僕にとって⁴⁰楽しくてたまらなかった⁴¹、僕は、あんなに濃艶⁴²な味⁴³を経験したことがない——君が気まぐれに僕を呼ぶとき僕は身も心も溶けてしまうのだと分かってほしい！

【星野幸代 訳】

二十三日

昨晚、来今雨軒⁴⁴ではまた意気軒昂なる「援女学連合会」があり、一人のヒゲ男は背が低くて⁴⁵、沈鈞儒⁴⁶のようだが誰か分からず、まるで大軍師のようだった。三五人の女子学生と男子学生連中と一緒に立って談話していた、女子はめそめそ泣いて、涙を拭きながら、大声で抗議していた。僕にはこんな風にしか聞こえなかった。「こんなことに何か公理があるとでもいうの？」⁴⁷とか、「誰が行方不明になったの、誰が重症なの？誰かは彼らに殴られて死んだに違いないわ、ああ、きっと殴られて死んじゃったのよ、おお……おお……」

眉、正直のところ見てて面白かった、君は、女は本当に能無しで、何かという泣くんだから、と言っていたが、君は知らなかっただろう、女は泣いてこそ本領を発揮するんだよ！

今朝から雨が降り出し、一日中どんよりしていた、君が楽しくないと、僕も晴れ晴れしない。君は人と会いたがらず、僕にも会いたがらない。君は電話しないし、僕の声すら聞きたくないのを僕は知っている。僕はちっとも君のことをとがめているのではないよ。眉、僕は君の憂鬱なことを理解し、僕は、ただ、君に当然である慰めを与えられないのを済まなく思う。十一時半になった、君はまだ帰宅していない、思うに、いま君はきっと関わりのない俗っぽい客人たちが騒ぐ中に座り、彼らが気ままに賭けごとをするのを見て、ただぼんやりしていて、涙を心の中へ流し、時々作り笑いをしなければならぬのだろう、眉、君はまだうんざりしていないのか、こんなつまらない生活に？まだ造反しないのかい、眉？

僕は君に何を言えいいかわからない。すべて話し終えてしまったようでもあり、また何も言っていないような気もする。眉よ、君は僕の心が見えないのかい？この寂しい庭には今晚また僕一人しかなくて、おそろしく静かだよ、君が僕の周りにいないような気がする、僕は君のところまで飛んで行きたいが、当分飛んで行けそうもない、眉、これは苦しい、本当に苦しいよ！先ほど適之〔胡適〕が、さしあたり僕たちのところへは敢えて来ないことにするとと言った、僕たちの不自然な状況を不快に思ったからだ。こ

とがここに至っていなかったときには、皆で顔を合わせてふざけても構わなかったけれど、もう駄目になってしまった、悲惨な顔色、差し迫った雰囲気、一気に全部やってきたが、会ったときにはまた取り繕わなければならない、それは苦痛そのもので、傍観者までみな不愉快になる、だから彼は来たくないんだ、君には会いたがっているけれど、彼は明日お母さんのところへ話しにいつてくれるが、彼が話してまた効き目がなかったら、ほかには誰も望みがない。彼は本当に良い友達だ、彼は考え深いし、行動力もある、僕たちは将来どうやって彼にお礼をしたらいいかわからない。叔華⁴⁸からの手紙にはこんな言葉があった——私は自分が無力でかわいそうだと思ったけれど、小曼に会ったとたん私の方が彼女よりはりに運が良いと思いました。もしも私が元気になったら、多少は仕事ができるけど、彼女は困難の連続で、思いきって志を立てないと、非常に危ないでしょう。虚しく時を過ごして、どうやって健康的な精神と身体を守れるでしょう！志摩、あなたたちはみんな彼女の身近な友達なのに、なんで彼女のために考えてあげないの？彼女に虚しく時を過ごさせるなんて、本当に惜しい。私は女性だから、家庭内のことに関与するのはよくないけれど……

【柳晶 訳】

〈注〉

* 『漢語大詞典』は漢語大詞典編集委員会・漢語大詞典編纂処編纂『漢語大詞典』全十二巻、上海辞書出版社1986年を指す。注のなかで「『漢語大詞典』6-308」という表記は、『漢語大詞典』第六巻308頁を指す。

¹ 作者、作品については「(翻訳) 徐志摩「愛眉小札 1925年8月9～15日」(蟹江静夫・柳晶・王艷珍・杜娟・高媛・馬寧澤・大島絵莉香訳、星野幸代編訳『言語文化論集』名古屋大学国際言語文化研究科31巻2号、2010年3月、83-9頁)の「解題」を参照。本稿では改行、文字スペースについては、徐志摩の手稿版である陳麦青・賀聖遂撰『徐志摩『愛眉小札』真跡』(上海古籍出版社1999年)におおむね依っている。同書で削除されている空白部の語句、文字については、趙家璧編『愛眉小札』(上海良友図書印刷公司、普及本三版 1940年)韓石山編『徐志摩全集』第五巻(天津人民出版社2005年)、徐志摩著、陸小曼編『一本没有顔色の書』(上海遠東出版社2005年)を合わせて参照した。

² 翻訳担当順。それぞれ担当個所の末尾に担当者名を示した。いずれも名古屋大学、所属研究科及び学年は次の通り。陳玲：国際言語文化研究科D1。蟹江静夫：国際言語文化研究科D3。柳晶：国際言語文化研究科M2。杜娟：国際言語文化研究科M2。高媛：国際言語文化研究科D2。馬寧澤：文学研究科M2。李楊：国際言語文化研究科D1。

³ 原文「完事」。「完事大吉」ならばめでたく終結する。めでたしめでたし。(大東文化大学中国語大辞典編纂室『中国語大辞典』角川書店、1994、下巻3165頁)。この「完事」は「了事。使事情得到平息或結束」(『漢語大辞典』3-1334)という意味であるが、文脈において考えれば、「心の震えて死ぬ」という終結に対して徐志摩にはどうも抵抗感がなさそうである。ここで「完事」を「終結」の

みではなく、「めでたい終結」という意味を採る。

⁴ ここでは陸小曼の夫王賡のことと推測される。

⁵ 不詳。「北京の友人」であろうか。

⁶ 不詳。

⁷ 原文「走大方的路」。ここでは「大方地走路」として解釈する。

⁸ 原文「干脆」。ここでは、「干脆」として解釈する。

⁹ 手稿では空白。陸小曼編『一本没有顔色の書』は空白にし、韓石山編『徐志摩全集』（共に前掲）は「百里」と補う。本稿では韓石山編『徐志摩全集』に拠った。蒋百里（1882一説に1880～1938）は名を方震、字百里、徐志摩の親戚であり、同郷の浙江省海寧県の人。軍人であったが文化行政にも携わり、『蒋百里全集』を遺す。日本の成城学校及び士官学校に留学、続いてドイツでも軍事を学ぶ。帰国後保定軍校校長等をつとめ、1920年に浙江省議員となり、徐志摩、胡適らの新月社の活動に参加。抗日戦争中は陸軍大学校長を務め、病没。（陳玉堂編著『中国近現代人物名號大辞典』浙江古籍出版社、2005年、1992頁。虞呻林編『志摩的信』学林出版社2004、18頁。）

¹⁰ 原文「懷鬼胎」。人に言えぬ秘密。人にいうことができない考え・気持ち。『中国語大辞典』（前掲）上巻1167頁、「鬼胎：比喻心里藏着不敢告人的事或念頭。』『漢語大辞典』7-789）

¹¹ 張道宏のことと思われる。張道宏は安徽省合肥の人。1918～1919年米国クラーク大学で徐志摩のルームメートであった。次いでコロンビア大学で歴史を学ぶ。（秦賢次「徐志摩生平史事考察訂」『新文学史料』2008年第二期、102頁）

¹² 「優雅に着飾った女性たち」：原文「衣香鬢影」。「衣香」、「鬢影」はいずれも女性を指す。後に女性の姿態が優雅で、美しく着飾っていることを指す。（『漢語大辞典』9-19）

¹³ 「楽しそう」：原文「作楽」。「行楽（楽しみごとをする）」「取楽（享楽する）」を指す。（『漢語大辞典』1-1259）

¹⁴ 「容赦なく」：原文「饒人」。「寛容人（人を許す）」に同じ。（『漢語大辞典』12-577）

¹⁵ 「幻影」：原文「鬼影」。「虚幻の影子（ぼんやりとした影）」を指す。（『漢語大辞典』12-455）

¹⁶ 「命を投げ出して」：原文「肝腦」：「肝腦塗地（命を投げ出す）」の意味にとった。（『漢語大辞典』6-1169）

¹⁷ 斜体部分の原文は英語。

¹⁸ 原文「賚人寄户西、腰微昆理姚」。出典不祥。

賚：怀抱着

微：细

昆：通混。胡乱的意思。

姚：通妖。

として解釈した。

¹⁹ 原文“饿荒”。ここでは“饿得慌”（たいへんお腹がすいている）として解釈する。

²⁰ 原文“酸劲儿”。「悲しさ、せつなさ」の意。“劲儿”は形容詞、動詞の後に付き、それらを名詞化して意味を強調する。

²¹ 原文“见错”。ここでは「誤解がなくなる」と解釈する。

²² 对不起人：直訳「人に対して申し訳ない」

²³ 人家：徐志摩のことと解釈する。

²⁴ l.16 得：děi ①需要。 ②必須。 ③将要（～しようとしている）。张天翼<最后列车>“明儿

得下雪。”『漢語大詞典』3-989] ここでは③で解釈しておく。

²⁵ 才: ④副詞 (1) 刚刚, 刚才。 (2) 开始; 方始。 (3) 只。仅仅。 (4) 如果。 (5) 表示事情发生得晚或结束得晚。 (6) 表示只有在某种条件下, 或由于某种原因、目的, 然后怎么样。 (7) 强调确定的语气。 (8) 吴方言。全, 都。[『漢語大詞典』1-299] ここでは (6) で解釈する。

²⁶ 「一首诗给你。叫你知道我爱你是怎样的深」の間の「。」を、手稿本の「积文」p.11 は「,」とする。ここでは、「,」として解釈しておく。

²⁷ 得: dèi ここでは、注24の①で解釈しておく。

²⁸ 原文「他」は「詩魂」を指すが、ここでは文字通り「彼」と訳す。

²⁹ 手稿本にある「眉」の横の文字は「y」の筆記体のように見えるが不明。

³⁰ 「记着了」は「记住了」に近い意味に訳す。

³¹ 应得: 犹应当; 应该。[『漢語大詞典』7-756] 应该: 表示情理上必然或必须如此。[7-757]

³² 「你永远不能对我说叫“Shut up”(当然你人你不会说的, 我是说笑话) 我心里受刀伤。」について、問題Ⅰ「能」は手稿本ではもともと「要」(?) だった。

問題Ⅱ「…笑话)」の後の「,」は手稿本には無し。

問題Ⅲ()内の「人」は手稿本では無し。無い方で解釈した。

³³ 「那」は「哪」として解釈する。

³⁴ 不詳。

³⁵ 「这一来」は「こうなって来ると」と解釈する。

³⁶ 著⁶ [zháo]: ① 燃烧。唐杜甫<初冬>诗: “渔舟上急水, 獵火著高林。”[『漢語大詞典』9-430]

³⁷ 「你知道」は「You know」のようなニュアンスとして解釈する。

³⁸ 「来的多快」は「来得多快」として解釈する。

³⁹ 「嚷吃」? 「嚷」は『漢語大詞典』3-556-557。

⁴⁰ 原文「在我是最 Enjoy 不过了」「在」は⑭介詞。表示动作、行为进行的处所 ⑮和“所”连用表示强调。[『漢語大詞典』2-1009] ⑮として解釈する。

⁴¹ 不过: ⑥用在动词或形容词后面, 表示程度最高。[『漢語大詞典』1-440]

⁴² 浓艳: →濃豔: 艳丽, 华丽。常代指鲜艳花朵或浓妆艳抹得妇女。[『漢語大詞典』6-163]

⁴³ 趣味: ① 情趣 [おもむき、趣向], 旨趣 [趣旨]; 兴趣。② 滋味、味道。[『漢語大詞典』9-1143] ②で解釈しておく。

⁴⁴ 北京の忠山公園にある茶館の名。

⁴⁵ 有一个大胡子矮矮的: 原文「大胡子」はひげを伸ばしている人のニックネーム。

⁴⁶ 沈鈞儒 (1875~1963) 江蘇省蘇州の人。1904年進士, 1905年留日(法大), 1933年中華民権保障同盟。

⁴⁷ 什么: ①表示疑问 ②无需, 不必 ③虚指。不肯定的事物 ④任指

⑤举例 ⑥否定。不同意, 不以为然 ⑦愤慨, 不满, 惊讶

『漢語大詞典』1-1102 本文では④の意味で訳す。

⁴⁸ 凌叔華 (1904-1991) 広東省番禺の人。作家。夫で評論家の陳源とともに新月社同人。徐志摩とは1924年タゴールの訪華の際、歓迎行事で知り合って以降、知的刺激を与え合う友人関係にあった。

補注 シェイクスピア『オセロー』第4幕第1場、オセローの台詞。(大場建治対訳『オセロー』研究社 2008年、222-223頁)